

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 27 年 2 月 19 日 13 時 55 分 ~ 15 時 15 分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は 55 問で解答時間は正味 1 時間 20 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

(例 1)、(例 2)及び(例 3)の問題では 1 から 4 までの 4 つの選択肢、もしくは 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)、(例 2)では 1 つ、(例 3)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。

なお、(例 1)、(例 2)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 3)の質問には、1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101 (1) (2) (3) (4)  
↓  
101 (1) (2) (3) ●

答案用紙②の場合、

101 101  
(1) (1)  
(2) (2)  
(3) → (3)  
(4) ●

(例2)

102 助産師国家試験の受験資格が規定されているのはどれか。

1. 医療法
2. 学校教育法
3. 母子保健法
4. 保健師助産師看護師法
5. 看護師等の人材確保の促進に関する法律

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、						
102	①	②	③	④	⑤	102	①	②	③	④	⑤
			↓								
102	①	②	③	●	⑤			→			

(例3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

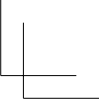
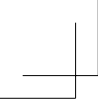
正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、						
103	①	②	③	④	⑤	103	①	②	③	④	⑤
			↓								
103	●	②	③	④	●			→			



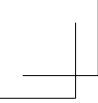
TP04mw-pmor-3





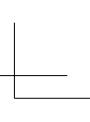
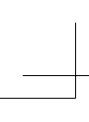
TP04mw-pmor-4





TP04mw-pmor-5





TP04mw-pmor-6



- 1 授乳期における喫煙によるニコチンの影響について正しいのはどれか。
  1. 射乳反射を亢進させる。
  2. 母乳中には移行しない。
  3. 母乳の分泌を抑制する。
  4. 母乳中の脂肪含有量を増加させる。
  
- 2 風邪の症状があり、市販の総合感冒薬を内服した母乳育児中の母親から授乳について質問があった。総合感冒薬の主成分はアセトアミノフェンであることを確認した。対応で最も適切なのはどれか。
  1. 「人工乳に切り替えましょう」
  2. 「搾乳して母乳を与えましょう」
  3. 「直接授乳を中止する必要はありません」
  4. 「冷凍した母乳を解凍して与えましょう」
  
- 3 高プロラクチン血症に伴う無月経の原因となるのはどれか。
  1. 体重減少
  2. 下垂体の腫瘍
  3. 分娩時大量出血
  4. ドパミン受容体刺激薬の内服
  
- 4 更年期の期間で適切なのはどれか。
  1. 閉経の前後3か月
  2. 閉経の前後1年
  3. 閉経の前後2年
  4. 閉経の前後5年

- 5 臍帯について正しいのはどれか。
1. 臍帯の表面は絨毛膜からなる。
  2. 臍帯動脈は臍帯静脈よりも太い。
  3. 2本の臍帯静脈と1本の臍帯動脈がある。
  4. 酸素分圧は臍帯動脈血よりも臍帯静脈血で高い。
- 6 正常に経過している褥婦の産褥3日における変化で正しいのはどれか。
1. 尿量が減少する。
  2. 尿蛋白が検出される。
  3. 血清鉄は正常範囲となる。
  4. 血中にヒト胎盤性ラクトゲン〈hPL〉が検出されない。
- 7 正常な分娩の進行について正しいのはどれか。
1. 第1回旋では児背の位置が変化する。
  2. 第2回旋では小泉門が母体の背側に近づく。
  3. 第3回旋では児頭が後屈する。
  4. 第4回旋では肩甲が長軸方向で180度回転する。
- 8 出生時の体重と身長が在胎週数相当の10パーセンタイル未満である児を表すのはどれか。
1. 後期早産児
  2. 極低出生体重児
  3. 超低出生体重児
  4. 不当軽量児〈SGA〉



9 妊娠高血圧腎症で重症と判定される尿蛋白定量の基準値はどれか。

1. 300 mg/日以上
2. 1 g/日以上
3. 2 g/日以上
4. 5 g/日以上

10 32歳の初産婦。妊娠28週0日で原因不明の死産となった。死産の翌日、褥婦は「私が何かいけないことをしたのでしょうか。赤ちゃんの世話を楽しみにしていたのに」と自分を責める言葉がみられた。

この褥婦への入院中のグリーフケアで最も適切なのはどれか。

1. 「次の妊娠に期待しましょう」
2. 「一緒に赤ちゃんに洋服を着せてあげましょう」
3. 「妊娠中のあなたの行動を振り返ってみましょう」
4. 「死産のことは誰にも話さないようにしましょう」

11 分娩第2期の産痛について正しいのはどれか。

1. 腰背部の痛みが増強する。
2. 外陰部の伸展圧迫に伴い強くなる。
3. 陣痛間欠時に呼吸に集中することで緩和される。
4. 第10～12胸神経および第1腰神経へ伝達される。

12 妊娠 40 週 0 日の初産婦。3,700 g の児を正常分娩した。分娩所要時間 5 時間 30 分。会陰裂傷第 3 度。分娩時出血量 600 mL で、麦角アルカロイドを使用した。分娩後 4 時間経過し、排尿を促した。子宮底の高さは臍下 2 横指、子宮は硬く触れる。排尿時痛、下腹部痛および創部の拍動痛を訴えた。

最も疑われるのはどれか。

1. 胎盤遺残
2. 外陰部血腫
3. 尿路感染症
4. 子宮復古不全

13 産後うつ病で正しいのはどれか。

1. 再発は 5 % 以下である。
2. 一過性の気分の変調である。
3. 産後 6 か月ころに発症しやすい。
4. 抑うつ気分が 2 週以上持続する。

14 34 歳の初産婦。妊娠 41 週 1 日。妊婦健康診査のため妊娠 16 週から受診している助産所に来所した。身長 152 cm、体重 56 kg (非妊時体重 46 kg)。血圧 122/88 mmHg。尿蛋白(±)、尿糖(±)。妊娠経過で特記すべきことはない。

このときの対応で最も適切なのはどれか。

1. 医療機関へ入院を勧める。
2. 過期産となることを説明する。
3. 次回の受診を 1 週後にする。
4. 連携する産婦人科医に相談する。

15 新生児の身体を構成する水分の割合について正しいのはどれか。

1. 体重当たりの割合は成人より小さい。
2. 成長に伴い細胞内の割合は小さくなる。
3. 細胞内の割合より細胞外の割合が大きい。
4. 早産児は正期産児より体重当たりの割合が小さい。

16 出生後にみられる新生児の循環動態の変化について正しいのはどれか。

1. 右房圧は左房圧よりも高くなる。
2. 肺動脈圧は大動脈圧よりも高くなる。
3. 出生後、速やかに肺血管抵抗は上昇する。
4. 動脈血酸素分圧〈PaO<sub>2</sub>〉の上昇により動脈管は収縮する。

17 2か月児と2歳児の母親。母親は上の子どもへの対応について助産師に相談した。

「最近勝手に赤ちゃんのオムツを替えたりします。無理に赤ちゃんの足を持ち上げるなど危ないことがあります。やめるように言うと暴れるようにして泣き、手がつけられません。どうしたらよいでしょうか」と言う。

母親への助言で最も適切なのはどれか。

1. 一緒にオムツ交換をする。
2. 乳児のいる部屋に入れない。
3. オムツ交換時に遊びを与える。
4. 母親の言うことをきくように言い聞かせる。

18 1歳6か月児で継続的なフォローが必要な状態はどれか。

1. なぐり書きをする。
2. 一人歩きができない。
3. 上着を脱ぐことができない。
4. 2語文を話すことができない。

19 母子健康手帳の交付について正しいのはどれか。

1. 妊娠12週以降に交付される。
2. 双胎の場合には2冊交付される。
3. 交付には妊娠の診断書が必要である。
4. 交付の代理申請は認められていない。

20 助産所の管理者に義務付けられているのはどれか。

1. 産科医療補償制度への加入
2. 助産師免許の助産所内での掲示
3. 医療安全支援センターへの開設の届出
4. 職員に対する医療に係る安全管理のための研修の実施

21 思春期の女子を対象とした外来を週1回行うことになり、担当医師と助産師のチーム3人で事前に検討した。

外来の運営方法について最も適切なのはどれか。

1. 診察時間は平日の午前に設定する。
2. 診察後の指導は保護者同伴とする。
3. 待合室は成人女性の外来と別にする。
4. 外来は毎回異なる助産師が担当する。

22 産科医療補償制度について正しいのはどれか。

1. 補償を申請できるのは児の主治医である。
2. 補償を申請できるのは5歳の誕生日までである。
3. 補償を申請できるのは生後3か月の時点からである。
4. 障害の原因が染色体異常であると判断された児も補償対象となる。

23 32歳の初妊婦。妊娠37週5日の胎児心拍数陣痛図で、胎児心拍数基線125bpm、基線細変動は消失し、高度変動一過性徐脈が確認された。

この胎児心拍数陣痛図の波形レベルはどれか。

1. レベル1
2. レベル2
3. レベル3
4. レベル4
5. レベル5

24 前回の分娩で子宮内反症を起こした経産婦。今回の妊娠経過は順調で、正常な経過で児を娩出した。

児娩出後の胎盤娩出のための対応で最も適切なのはどれか。

1. 臍帯を牽引する。
2. 子宮底を圧迫する。
3. 胎盤を用手剥離する。
4. 子宮底を輪状マッサージする。
5. 胎盤剥離徴候がみられるまで待つ。

25 分娩後 48 時間。突然、褥婦に多量の性器出血を認めた。

原因として考えられるのはどれか。

1. 子宮破裂
2. 頸管裂傷
3. 腔壁血腫
4. 血栓性静脈炎
5. 卵膜・胎盤遺残

26 更年期障害に対するホルモン補充療法で最も治療効果が得られやすいのはどれか。

1. ほてり
2. 尿漏れ
3. 肩こり
4. 皮膚の乾燥
5. 骨量の減少

27 手技の実施によって子宮胎盤循環が悪化し、胎児の低酸素状態を急激に悪化させる危険性が指摘されているのはどれか。

1. 吸引分娩
2. 鉗子分娩
3. 子宮底圧迫法
4. Bracht〈ブラハト〉法
5. Veit-Smellie〈ファイト・スメリー〉法

28 正期産で出生した児の生後12時間の所見で、直ちに小児科医に報告する必要があるのはどれか。

1. 排尿がみられない。
2. 排便がみられない。
3. 羊水様の嘔吐が数回みられる。
4. 股関節に開排の制限がみられる。
5. 出生時から頭部全体が膨隆してきている。

29 医療法に基づき、有床助産所の構造設備について基準が定められているのはどれか。

1. 保育器
2. 分娩室の床面積
3. 入所する妊産婦用の食堂
4. 洗浄機能の付いたトイレ
5. 子ども用のプレイルーム

30 Müller〈ミュラー〉管から形成される臓器はどれか。2つ選べ。

1. 子宮
2. 卵管
3. 卵巣
4. 精管
5. 精巣

31 常位胎盤早期剝離を示唆する所見はどれか。2つ選べ。

1. 単一臍帯動脈
2. 胎盤母体面の凝血塊の付着
3. 胎盤実質内の石灰沈着
4. 胎盤実質内の梗塞
5. 血性羊水

32 子宮筋腫合併妊娠で起こりやすいのはどれか。2つ選べ。

1. 早産
2. 耐糖能異常
3. 細菌性膣炎
4. HELLP 症候群
5. 胎盤の位置異常

33 新生児の体温について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 褐色脂肪組織で熱産生を行う。
2. 成人に比べ輻射による熱喪失が小さい。
3. 環境温度が低いと酸素消費量が小さくなる。
4. 低体温は代謝性アルカローシスの原因となる。
5. 出生直後に羊水を拭くことで熱喪失が予防できる。



34 在胎 38 週 0 日、体重 2,800 g で出生した児。蘇生の初期処置を終えたところ、あえぎ呼吸で心拍数は 6 秒間に 9 回であった。

新生児蘇生法ガイドライン 2010 に基づいて管理する場合、このときの処置で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. パルスオキシメータの装着
2. フリーフローでの酸素投与
3. バッグ・マスク換気
4. アドレナリンの投与
5. 胸骨圧迫

35 平成 24 年(2012 年)の母子保健統計について正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 出生数は過去 10 年で最低である。
2. 自然死産率は人工死産率よりも高い。
3. 妊産婦死亡数は 200 人を超えている。
4. 人工妊娠中絶数は前年に比べ増加している。
5. 第 1 子出生時の母の平均年齢は 30 歳を超えている。

次の文を読み 36～38 の問いに答えよ。

A さん(40 歳、女性)。39 歳のときに 43 歳の男性と結婚し、1 年間基礎体温を記録して妊娠のタイミングをはかっていた。妊娠に至らなかったため、不妊症の検査を希望して来院した。

36 不妊症の検査を始めるときの指導で最も適切なのはどれか。

1. 「あなたの検査に夫の同意が必要です」
2. 「42 歳を超えたら治療をやめたほうがよいです」
3. 「一度治療を始めたなら途中で休んではいけません」
4. 「高齢の妊娠では母体と胎児に異常が生じるリスクが高くなります」
5. 「不妊期間が 2 年になるまで排卵日に合わせて性交渉を行きましょう」

37 A さんの既往歴に特記すべきことはなく、理学的所見も正常である。基礎体温は二相性であった。2 回目の受診時に A さんは「結婚してしばらくは排卵日に性交渉をもつようにしていましたが、夫が 3 か月くらい前から疲れているという理由で性交渉をもつことを拒否するようになりました。夫は容器に精液を採ることはできると言っています」と打ち明けた。

A さんに勧める内容で最も適切なのはどれか。

1. 「あなたへの検査は中止しましょう」
2. 「夫婦でカウンセリングを受けましょう」
3. 「夫にもっと協力するよう話しましょう」
4. 「夫が採取した精液を膣内に自己注入しましょう」

38 夫の精液検査を行ったところ、容器内に 4.0 mL の精液が採取されていたが、精液中に精子を全く認めなかった。射精感があったという。1 週後に再検査したが同様の結果であった。

A さん夫婦に勧める内容で適切なのはどれか。

1. 養子縁組をする。
2. 精巣生検を受ける。
3. 精子の提供者を探す。
4. 受精卵の提供者を探す。

次の文を読み 39～41 の問いに答えよ。

28歳の初産婦。妊娠39週5日。妊娠経過は順調であった。午後5時に陣痛発来し、午後8時に夫に付き添われて入院した。入院時、内診所見は子宮口3cm開大、展退度60%、Station-3、子宮頸管の硬度は中、子宮口の位置は中央、矢状縫合は横径に一致し、小泉門は9時の方向に触れ、未破水である。陣痛間欠5分、陣痛発作20～30秒。胎児心拍数基線は145bpmであった。夫は産婦の様子をみて心配している。

39 入院時の助産診断で正しいのはどれか。

1. 第1頭位である。
2. 児頭最大径は骨盤瀾部である。
3. Bishop〈ビショップ〉スコアは9点である。
4. Friedman〈フリードマン〉曲線の潜伏期である。

40 翌日午前8時40分の内診所見は、子宮口8cm開大、展退度90%、Station+1、子宮頸管の硬度は軟、子宮口の位置は前方、大泉門を1時方向に触れ、未破水である。陣痛間欠2分、陣痛発作60秒。体温37.2℃、呼吸数20/分、脈拍95/分、血圧160/100mmHg。上腹部痛を訴えている。頭痛や気分不快、手指の震えはない。濃縮尿がみられる。

このときの所見で直ちに対応が必要なのはどれか。2つ選べ。

1. 血 圧
2. 脈拍数
3. 呼吸数
4. 濃縮尿
5. 上腹部痛

41 午前 10 時の内診所見は、子宮口全開大、展退度 100 %、子宮頸管の硬度は軟、Station +3、大泉門が先進し 0 時方向にあり、産瘤が形成されている。陣痛間欠 1 分 30 秒～2 分、陣痛発作 70～80 秒。5 分前に自然破水し、羊水の混濁はなかった。陣痛間欠時の血圧は 130/90 mmHg であり、上腹部痛は消失した。陣痛発作時は上手に怒責を逃がす呼吸をしている。胎児心拍数陣痛図で早発一過性徐脈が認められる。陣痛発作時の産婦の表情を見た夫は助産師に「妻のあのようなつらい表情を見たのは初めてです」と戸惑った表情で言った。

このときの夫への対応で最も適切なのはどれか。

1. 「このくらいの痛みは普通です」
2. 「一緒に呼吸をしてあげてください」
3. 「帝王切開になる可能性が高いです」
4. 「お疲れでしょうから、別室で待機してください」

次の文を読み 42～44 の問いに答えよ。

32歳の初産婦。身長 155 cm、非妊時体重 68 kg、非妊時 BMI 28.3。妊娠 12 週 0 日、初診時の妊婦健康診査の血液検査データは、随時血糖 85 mg/dL、HbA1c 5.5 %であった。

42 妊娠 33 週 0 日。妊娠 12 週以降初めて病院を受診した。体重 82 kg。尿糖 2 +。子宮底長 35 cm。胎児推定体重は 2,600 g、羊水量は多めであった。

この時点での母児の状態について正しいのはどれか。

1. 妊娠糖尿病である。
2. 羊水検査が必要である。
3. 耐糖能検査を行う必要がある。
4. 胎児推定体重は正常範囲である。

43 妊娠 39 週 4 日。陣痛発生し午前 4 時に入院した。入院時、血圧 135/82 mmHg。尿蛋白(-)、尿糖 2 +。午前 10 時に自然破水し、午後 5 時に子宮口全開大となったが、微弱陣痛のためオキシトシン点滴静脈内注射による陣痛促進が行われた。午後 10 時 46 分、4,150 g の女児を経膣分娩した。Apgar〈アプガー〉スコアは、1 分後 8 点、5 分後 9 点。午後 10 時 52 分に胎盤が娩出され、子宮内に遺残はなかったが、子宮底部は臍よりも高い位置に軟らかく触知された。膣口から持続的な出血が認められ、午後 11 時 15 分の時点で総出血量が 1,400 mL となった。

出血量の増加に関係した可能性が高いのはどれか。

1. 児の体重
2. 破水の時期
3. 母体の身長
4. 母体の血圧

44 午後 11 時 20 分、性器出血が持続し総出血量 1,800 mL となり、気分不快を訴えた後、名前の呼びかけに対する応答が困難となった。体温 37.1℃、呼吸数 25/分、脈拍 130/分、血圧 74/35 mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO<sub>2</sub>〉 98 %であった。

この時点での判断で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 輸血を準備する必要がある。
2. 痛み止めの坐薬が必要である。
3. 子宮収縮抑制薬の使用が必要である。
4. 仰臥位低血圧症候群の可能性が高い。
5. ショックインデックスは 1.5 を超えている。

次の文を読み 45～47 の問いに答えよ。

A さん(33 歳、経産婦、銀行員)。妊娠 28 週 0 日。妊婦健康診査で、身長 160 cm、体重 70 kg(非妊時体重 58 kg)。血圧 136/90 mmHg。尿蛋白 +、尿糖(-)。下肢に浮腫と静脈瘤は認めない。Hb 11.5 g/dL、Ht 34 %。胎児推定体重 1,200 g、AFI 8.0、子宮頸管長 35 mm であった。前回の妊婦健康診査までは異常は指摘されていない。

45 この時点の母体のアセスメントで適切なのはどれか。

1. 正常経過
2. 切迫早産
3. 妊娠貧血
4. 妊娠高血圧症候群
5. 胎児発育不全(FGR)

46 A さんは「職場のストレスのために甘いものを食べ過ぎてしまい、急に体重が増えすぎたと反省しています」と話した。

A さんに勧める摂取エネルギー量の計算式として適切なのはどれか。

1.  $20 \text{ kcal} \times \text{非妊時体重}(\text{kg})$
2.  $30 \text{ kcal} \times \text{非妊時体重}(\text{kg})$
3.  $30 \text{ kcal} \times \text{理想体重}(\text{kg}) + 100 \text{ kcal}$
4.  $30 \text{ kcal} \times \text{理想体重}(\text{kg}) + 200 \text{ kcal}$



47 Aさんは「できる限り仕事を続けたいと思っていますが、1日中顧客の苦情を聞いている仕事なので、最近では夕方になると疲れて頭が痛くなります」と話した。助産師は母性健康管理指導事項連絡カードを発行した。

母性健康管理指導事項連絡カードを活用してAさんが申請できる措置はどれか。

2つ選べ。

1. 勤務時間の短縮
2. 横になっての休息
3. 週1回の妊婦健康診査
4. 緊張を多く感じる作業の制限
5. 同一姿勢を強制される作業の制限

次の文を読み 48～50 の問いに答えよ。

A さん(28 歳、1 回経産婦)。妊娠 38 週 5 日。午後 1 時に外陰部に液体の流出を感じ、おりものパッドが濡れていたため午後 2 時に来院した。今回の妊娠経過中に妊娠 33 週ころからくしゃみをすると尿漏れがしばしば生じていた。

48 尿漏れと破水の鑑別診断において最も適切な方法はどれか。

1. 膣分泌物の細菌培養検査を行う。
2. おりものパッドに流出した液体の量を計測する。
3. 膣鏡診にて後膣円蓋に液体貯留があるかを確認する。
4. BTB 試験紙をおりものパッドに付けて色調の変化を確認する。

49 A さんは破水と診断されて入院した。入院時の内診所見は、子宮口 3 cm 開大、展退度 50 %、Station -2 であった。午後 5 時に規則的な陣痛が出現して次第に増強した。午後 9 時に子宮口 8 cm 開大、Station +1、小泉門が 10 時方向に触れた。A さんは陣痛時につらそうな表情を浮かべている。体温 37.2℃、脈拍 80/分、血圧 120/75 mmHg。胎児心拍数陣痛図で、胎児心拍数基線は正常、子宮収縮のピークと一致する最下点 90 bpm で持続時間 10 秒の一過性徐脈が出現している。

午後 9 時の助産診断で正しいのはどれか。

1. 正常経過
2. 回旋異常
3. 微弱陣痛
4. 子宮内感染
5. 児頭は骨盤内に未固定

50 午後10時、急速に児頭が下降し、午後10時10分に排臨となり、午後10時11分に児頭から肩甲まで娩出し、3,260gの男児を正常分娩した。Apgar〈アプガー〉スコアは、1分後7点、5分後9点であった。児娩出後1分に480gの胎盤を自然に娩出した。膣と会陰に裂傷が生じ、肛門括約筋に損傷があったが、直腸粘膜面には達していない。

このときの状態の判断として正しいのはどれか。

1. 会陰裂傷第3度が生じている。
2. 分娩後に便失禁が生じることはない。
3. 胎盤の娩出時に裂傷が生じた可能性が高い。
4. 肛門括約筋は縫合せず自然治癒を待つのが良い。

次の文を読み 51～53 の問いに答えよ。

Aさん(35歳、初産婦)。妊娠41週0日。身長158cm、体重80kg(非妊時体重75kg)。午後7時に陣痛発来し、午後10時に入院した。現在は1時間前に比べて陣痛間欠が短縮したと自覚がある。胎児心拍数陣痛図は reassuring fetal status であった。体温36.6℃、脈拍78/分、血圧134/80mmHg。尿蛋白(-)、尿糖(-)。Seitz〈ザイツ〉法(±)。妊娠40週3日の妊婦健康診査で胎児推定体重3,800g、BPD9.7cm、AFI8.0であった。

51 入院時の助産診断で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 過期産である。
2. 巨大児と推定される。
3. 遷延分娩の可能性がある。
4. 妊娠高血圧症候群である。
5. 母児の健康状態は良好である。

52 分娩第2期になり2時間が経過し、微弱陣痛のためオキシトシン点滴静脈内注射が開始された。その後、順調に分娩が進行し、オキシトシン点滴静脈内注射の開始後30分に児頭まで娩出した。その後、前在肩甲娩出術を試みたが娩出しない。

このときの対応として正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 子宮底部を圧迫する。
2. 強く児頭を牽引する。
3. 恥骨上縁圧迫法を行う。
4. オキシトシンを増量する。
5. McRoberts〈マックロバーツ〉体位をとらせる。

53 4,032 g で出生した男児。Apgar〈アプガー〉スコアは1分後8点、5分後9点。

出生時に羊水混濁はなかった。

まず確認する児の異常はどれか。2つ選べ。

1. 鎖骨骨折
2. 腕神経叢麻痺
3. 顔面神経麻痺
4. 帽状腱膜下出血
5. 胎便吸引症候群

次の文を読み 54、55 の問いに答えよ。

A さん(28 歳、初産婦)。夫と 2 人暮らし。両親と姉とが近隣に住んでいる。夫は長距離トラックの運転手をしており、自宅に帰る時間は不規則である。妊娠 24 週 2 日、初めて妊婦健康診査を受診し、計画していない妊娠だと話した。その後、妊婦健康診査を 3 回受診し、妊娠 38 週 0 日に正常分娩した。入院中の母児の状態は良好であった。産後 5 日、産後の生活の手伝いが決まらないまま退院した。病院の助産師は、市町村保健センターに連絡し、依頼を受けた地域の助産師が産後 8 日に訪問した。

54 訪問すると「家事と育児は 1 人でしています。夜も授乳でゆっくり眠れていません」と言う。

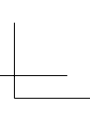
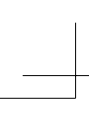
最初の対応で適切なのはどれか。

1. 児童相談所に相談するよう説明する。
2. 夫に育児を手伝ってもらうよう話す。
3. 家事を手伝ってくれる者を確認する。
4. 子育て中の親子が集うサークルを紹介する。

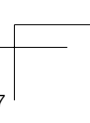
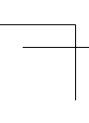
55 地域の助産師は、初回訪問で授乳方法を指導し、産後11日にAさんを再訪問した。児の体重は1日30g増加している。児の栄養は母乳栄養のみであった。児の抱き方はぎこちなく、オムツ交換に時間がかかっている。オムツ交換の回数を確認すると1日6回程度という。

このときの対応で最も適切なのはどれか。

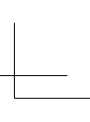
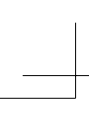
1. 「育児を頑張っていますね」
2. 「人工乳を足した方がいいですね」
3. 「オムツ交換は手早く行いましょう」
4. 「その抱き方では臍鞘炎になりますよ」



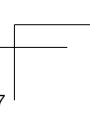
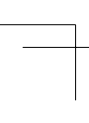
TP04mw-pmor-32

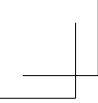






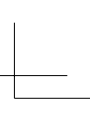
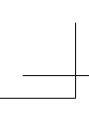
TP04mw-pmor-33



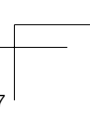
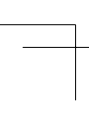


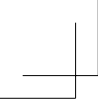
TP04mw-pmor-34





TP04mw-pmor-35





TP04mw-pmor-36

